

# 『 音 楽 』 シラバス

科 目 名	学 科	学 年	必修 / 選択	単 位 数
音 楽	全学科	1 年	選 択	2 単位

## 1 . 科目目標と使用教材

科目目標	歌唱などの表現活動と鑑賞活動を通して、生徒自らが表現工夫をしようとする積極的な態度を養う。又、感動体験を共有することにより、文化的な次元での価値観の形成・拡大を養う。
使用教材	教科書：新・高校の音楽（音楽の友社） 資料書：ミュージックノート・基礎から学ぶ高校音楽（啓隆社）

## 2 . 学習計画

学期	学 習 項 目	学 習 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートを使用して発声の練習をし、ソルフェージュを学ぶ。基礎的通論を学び、課題を実習する。</li> <li>・ 歌唱：校歌、寮歌、応援歌を練習する。 イタリア歌曲を歌う。</li> <li>・ 鑑賞：西洋音楽史の流れを学ぶ。 中世から古典派まで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹式呼吸法を理解させ、口形など発声の基本を学ぶ。コンコーネを用い譜読みの仕組みを学びながら、視唱力を高める。</li> <li>・ 校歌など本校の歌を正しく歌う。 歌曲を原語で歌うことで、その国の文化や詩と曲の関わりを考え芸術性の価値観を養う。</li> <li>・ 鑑賞する態度を養う。中世から古典までの楽器や音楽様式の特徴を理解する。名曲を鑑賞し、楽曲の種類や演奏形態を聴き取る。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発声・視唱歌唱をする。基礎的な音楽通論を学び、課題を実習する。</li> <li>・ 歌唱：ドイツ歌曲を歌う。</li> <li>・ 鑑賞：西洋音楽史の流れを学ぶ。 ロマン派から現代、オペラ、ミュージカル。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発声の基本を反復し、視唱力の力を養う。課題から基礎的な楽典を学ぶ。</li> <li>・ ドイツ歌曲を原語で歌うことにより、その国の文化や芸術性の価値観を養い、詩への理解を深め、歌唱への意欲を高める。</li> <li>・ 表現との関連を図りながら、さまざまな音楽を鑑賞し、声や楽器の特性と表現上の効果や楽曲の歴史的背景を学習する。</li> </ul>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発声、視唱歌唱をする。基礎的な音楽通論の実習と仕上げ。</li> <li>・ 歌唱：日本歌曲を歌う。</li> <li>・ 鑑賞：日本音楽史 日本の伝統音楽</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発声を確立し、視唱の力をつける。音楽と理論が一体であると理解させ、今まで継続してきた基礎的通論と楽典をまとめる。</li> <li>・ 日本の歌を歌うことで、歴史的、文化的背景を学び、歌詞の趣旨及び曲想の把握と表現の工夫を図る。</li> <li>・ 日本音楽の流れを学び、楽器の種類や特性を知る。邦人の作品や伝統音楽を鑑賞して日本の音楽に親しむ。</li> </ul>

### 3. 学習方法

本校は主に歌唱と鑑賞で授業を進めていくので、教科書・ノート・筆記道具は必ず携え揃えておく。特にノートは書き込みをするので人との貸し借りは不可。\*忘れ物についてはペナルティーを課す音楽は数字だけでは評価できない教科なので、積極的に授業に参加し、歌唱は大きな声ではっきり歌うとか、課題は速やかに提出するなど、見えるところで自分をアピールしてほしい。

### 4. 評価の観点

関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音楽に対する興味と関心を持ち、意欲的に主体的に音楽活動を行う。
思考・判断	楽曲の仕組みや諸要素を学び、楽譜の読み取りや表現の工夫をする。
技能・表現	楽曲から感じるイメージを作り、楽語や記号を理解して曲を表現するための技能を養う。
知識・理解	多様な音楽に対する理解を深め、その良さや美しさを味わい、鑑賞する力を養う。

### 5. 成績評価

1・2学期	中間	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>中間考査は行いません。</p>	定期考査 (素点)	平 常 点				%	%	%	%	%					
	定期考査 (素点)	平 常 点															
%	%	%	%	%													
	期末	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点・実技)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>提出物</td> <td>授業態度</td> <td>出席</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期考査 (素点・実技)	平 常 点					提出物	授業態度	出席		60%	20%	15%	5%	%
定期考査 (素点・実技)	平 常 点																
	提出物	授業態度	出席														
60%	20%	15%	5%	%													
3学期	学年末	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点・実技)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>提出物</td> <td>授業態度</td> <td>出席</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>*学年評価は(1+2+3学期)÷3とする。</p>	定期考査 (素点・実技)	平 常 点					提出物	授業態度	出席		60%	20%	15%	5%	%
定期考査 (素点・実技)	平 常 点																
	提出物	授業態度	出席														
60%	20%	15%	5%	%													

### 6. 生徒の皆さんへ

文化・芸術の分野や領域において、音楽はさまざまな媒体手段の中でも、非言語的世界において意味深いコミュニケーションの形成と共有の機能を持っています。未知の音や音楽との出会いを起点として、日頃から感動する心を養いたいと思います。



## ピアノが木でできているわけは？

ピアノは弦やフレームなどをのぞくと、大部分が木でできている。

さまざまな新素材が開発されているのに、いまでもピアノに木がたくさん使われるのはなぜだろう。



最近では楽器でもエレクトーンなどの電子楽器はプラスチックで作られることが多くなりました。ではピアノはなぜ、そのような軽くて丈夫な新素材で作られないのでしょうか。

電子楽器の場合、作られる音は電子記号であり、スピーカーを通して初めて耳に聞こえる音(振動音)となるわけで、楽器本体が共鳴するものではありません。しかしピアノやヴァイオリン、ギターなどは、楽器自体が共鳴箱となり、そこで増幅された振動が直接空気を伝わって音になります。したがってその箱にも、振動に良い影響を与える素材を使わなければ、豊かな音の響きは失われてしまうのです。そのため、やはり天然素材である木がピアノでは多く使われている、というわけです。

一般に人間の耳には自然界に存在する音に近い音ほど、快いと感じる傾向があります。そこで昔から、アコースティックな楽器には天然素材から生まれる豊かで自然な音が追求されてきました。木は人間の耳に不快に響く高次倍音を吸収し、生体のバイオリズムにかなった響き(放射)と余韻(減衰)を作りだします。その自然な音が、私たちに“美しい”と感じさせる一つの要因になっているのです。

## ピアノに使われている木は適材適所

ピアノの素材として木が最もふさわしいといっても、どんな木材でもいいというわけではない。プレハブ住宅に使われるような南洋材の合板などは、あまり良いとはいえない。文字どおり適材適所ということで、ピアノに使われる木の種類も、ピアノの部分によって使い分けられている。響板に代表される振動素材には、軽くて弾力性があり振動をよく伝えるスプルース(マツ材)が、鍵盤や支柱などには丈夫なマツ、ブナ、カバ、カエデなどが、耐久性を求められるアクション部にはカエデ、ツバキ、シデなどが使われている。最高級のコンサートグランドピアノでは、あの巨大な胴の部分(外装)にも、カエデが使われ、叩いてみると、カーンという拍子木のようなのびのある音がでてる。



